

専門試験（薬剤師）

〔例題1〕 原子吸光光度法，誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法及びICP質量分析法に関する次の記述のうち，正しいのはどれか。

1. 原子吸光光度法では，主に励起状態の原子蒸気による光吸収を観測している。
2. 原子吸光は極めて狭い波長範囲（1 pm 程度）の光吸収であるため，共存物質等による干渉を考慮する必要がない。
3. ICP は，光と熱の発生を伴う状態で，通常は物質と酸素との化学反応によって生じる。
4. ICP 発光分光分析法は，測定対象の元素ごとにプラズマ化して励起源として用いる必要があるため，多元素同時測定には適用できない。
5. ICP 質量分析法では，ICP 中に導入された試料のうち，イオン化された原子を質量分析計で検出している。

[例題2] 薬剤師法に基づく薬剤師の業務に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 薬局の薬剤師は、薬局の管理者が不在の場合、調剤を断らなければならない。
2. 病院の調剤所では、入院していた患者が退院した後、当該患者が近隣の診療所の医師から交付された処方箋により病院の薬剤師は調剤することができる。
3. 病院の薬剤師は、処方箋を交付した医師の同意を得ずに、処方箋に記載された医薬品を変更して調剤することができる。
4. 薬局開設者は、調剤録を、薬剤師による最終の記入の日から2年間経過後、廃棄することができる。
5. 薬剤師は、販売又は授与の目的で調剤した薬剤の容器又は被包に、患者の氏名、用法、用量等を記載しなければならない。